

牛乳寄付いただきました



鈴鹿の風

すずかのかせ

VOL.
40

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

当院の 新型コロナウイルス感染対策

院長 久留 聡

看護部だより
ご寄付に対するお礼について
医学コラム「東日本大震災とセルフケア」
地域医療連携室だより
療育指導室からのお知らせ
名誉院長の部屋「院長冥利」



当院の新型コロナウイルス感染対策

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 院長 **久留 聡**



新型コロナウイルス感染が全国に拡大しています。第一波の時は無風地区であった三重県もここにきて患者さんが増えています。そこで、あらためて当院の新型コロナウイルス感染対策について述べたいと思います。

COVID19感染が始まって早半年以上が経過し、このウイルスについていんなことが分かってきました。敵の正体を知った上で「正しく怖れる」ことはとても大切だと思います。もっとも重要なこととして、高齢者や基礎疾患を持つ人は重篤化しやすいということです。当院には、筋ジストロフィーや神経難病、重度心身障害といった重い障害を有する患者さんばかりが入院していますので、もし新型コロナウイルスが侵入してしまいますと、瞬く間に感染が広がって、重症者が出てしまう危険性が極めて高いと考えられます。なので、ウイルスの侵入を防ぐための「水際対策」が不可欠です。面会制限もその一環です。残念ながらウイルスは目に見えませんが、たとえ潜伏期間で

あっても感染させてしまう可能性があること、感染していても無症状であったり、症状が軽い患者さんもいることが分かってきました。そのため、やむなく病棟への出入りを極力制限しているということです。もちろん、寂しい思いをされている入院患者さんもみえますし、ご家族の方も患者さんのことが心配だと思います。その対策として当院では8月からスマートフォンを利用した「オンライン面会」を開始しています（詳細は本号の記事をご覧ください）。まだ始めたばかりの試みなので、もし「オンライン面会」へのご意見やご感想があれば是非お寄せいただきたいと思います。この号が出るころには面会制限が解除できる方向になっていればよいのですが…。

もう一つ残念なお知らせとしては、「第7回筋ジストロフィー医療研究会」の現地開催を中止したことです。今回は当院が主幹となって、基礎系の学会である日本筋学会と合同で当初は7月31日、8月1日に名古屋大学で開催す

る予定でした。4月の緊急事態宣言を受けて、一旦12月に延期することで何とか現地開催したいと頑張ったのですが、感染状況が収まる気配がなく断念いたしました。なお、日本筋学会の方はWEB開催を行い、われわれ筋ジストロフィー医療研究会は一般演題を誌上発表することになります。今年はオリンピックを始め色んなイベントや学会が軒並み中止、延期あるいはオンライン開催へと変更になり本当に残念で仕方がありません。今はひたすら辛抱の時期なのでしょう。

この文章の執筆と本号発行には少しタイムラグがあるので、コロナの状況がどのように推移しているのかわかりませんが、まだまだ予断を許さない状況であろうと思います。新型コロナウイルスとの戦いは長期戦を余儀なくされるかもしれません。有効なワクチンや治療薬がでてくるまでは、一人ひとりが十分に感染に注意していくしかありませんし、それが一番大事なことであることを強調したいと思います。



看護部だより

第1病棟看護師長 前田 仁子



第1病棟の取り組み

第1病棟は、神経難病の患者様を受け入れており、日々、患者様の状態に応じた看護とはなにか、私たちに出来ることは何かを考えながら看護を行っています。



2018年に、厚生労働省から「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」が発出されました。諸外国のアドバンスケアプランニングという概念が盛り込まれ、「人生会議」というセカンドネームがあります。国民一人ひとりが「人生の最

終段階を考える」ことをめざすガイドラインとなっています。それを踏まえ第1病棟では、人生の最終段階のみならず、患者様の意思決定を必要とする様々な場面で、どうすれば患者様が選択された思いに寄り添えるのか勉強を始めました。

患者様一人ひとり、考え方も思いも異なります。その思いを尊重できるように、主治医、受け持ち看護師、リハビリと多職種で、患者様に寄り添った意思決定支援に取り組んでいきたいと考えています。

ご寄付に対するお礼について

当院では感染症対策の対応をはじめ、各方面から多くの温かいご支援を頂戴しており、厚くお礼申し上げます。

ご寄付を頂戴した方々のご芳名

株式会社ファーストリテイリング 様
株式会社日立製作所 様
大内山酪農農業協同組合 様

AGF鈴鹿株式会社 様
伊勢形紙協同組合 様

(順不同)

また、匿名でご寄付を頂戴した事例も複数あり、厚くお礼申し上げます。頂戴しましたご支援につきましては、感染症対策をはじめ、当院の運営に活用させていただき、よりよい医療の提供に努めて行く所存です。よろしければ、引き続き皆様のお力添えをいただければ幸いです。

医学 コラム

東日本大震災とセルフケア

皆さんこんにちは。内科の落合です。私は岩手県の大学の出身で2015年まで岩手県に住んでおりました。2011年の震災の折にも岩手県の病院に努めておりましてその経験をお話したいと思います。

3月11日午後回診をしている際に揺れ始め、「カン」という音とともに停電になったのをよく覚えています。その病院に内陸にあるので津波の被害はなく、地盤もしっかりしたところなので建物の被害も周辺含めありませんで

した。発電機がすぐに動作して明かりがつかまりました。職員が集まってこの発電機でなにができるかを相談しました。発電機の電流容量ではX線写真やCTなどのX線機器は使えず、内視鏡だけは使えるようでした。エレベーターも動かせないとの事で上の階に入院されている患者さんの食事は職員を階段に並べてバケツリレーで運びました。ちょうど土日だったので救急外来のみ開けていました。来院される方のためにテレビとラジオには電源を引いていつけばなしにしていました。その後3日ほどして停電が復旧され、月曜日から外来を行うことになりました。薬などの入荷の予定が分からなくなっていたので処方箋を7日とか14日とか短期間分のみ出して在庫でしのぐことになり、また当時は紙のカルテがあったの

でそこから紙の処方箋に手書きして処方しました。普段はコンピュータに過去の処方箋が記録されているのでそれを参照できるのですが手書きにして短期間にしたので受診者が大変多くなったのを覚えています。

もう少し日が経ってからは自宅の被災などで他地域から移ってこられる方の診療の引き継ぎが見られるようになりました。お薬手帳・血圧手帳・糖尿病手帳などが大変役に立ったことを覚えています。そういう経験もあり、私としては診療の手帳等がいざというとき十分に役に立つように、通院される先々で書いてもらったり、普段の患者さんご自身の血圧などを書いてもらうようお願いしている次第です。

内科医師 落合 仁

すべての患者さんが安心して療養できるために

鈴鹿病院では下記の感染予防対策に取り組んでいます。

- 標準的感染予防対策（マスク・ゴーグル・手洗い等）の徹底。
- 職員の健康観察（検温・体調チェック等）。
- 院内各設備（医療機器・エレベーター操作スイッチ手すり・自動販売機等）の環境清掃。
- 待合室、休憩室等でのソーシャルディスタンス。
- 職員の不要不急の県外移動自粛。



地域医療連携室だより

医療福祉相談

検温・体調チェックを実施しております。
患者様・ご家族様のご協力をお願いします

地域医療連携室では各種相談を受け付けております。
連絡先:059-378-1321(代表)地域医療連携室 受付時間:平日8:30~17:00



療育指導室からの お知らせ

今年度は新型コロナウイルス流行のため、レクリエーション活動やお楽しみ会・サマーフェスティバルなど様々な行事を中止せざるを得ない状況になりました。私たち療育指導室スタッフとしても初めての経験ですが、感染予防に注意しながら患者様に楽しく療育に参加していただけるよう、工夫をして療育活動をおこなっています。

重心病棟では、長かった梅雨の季節にちなんで「びよんびよんカエル」を

患者様と一緒に作り、一番遠くまで跳ばせた人が優勝！というカエル跳ばし競争をしたり、3階のプレイルームいっぱいにすざろくを展開し、スタッフと一緒にサイコロをふってゴールを目指して盛り上がりました。また筋ジス病棟では3階プレイルームの大きなスクリーンと音響設備を使用して映画館体験をおこないました。

ご家族の面会禁止が続いていますが、今後も院内の設備をフル活用しつつ、この局面と一緒に乗り越えていきたいと思っております。





名誉院長の部屋

名誉院長 小長谷 正明

医者冥利

何かの都合で外来診療を休んだ日、良性の筋ジストロフィーの患者さんがやってきたといいます。対応した外来師長さんの話では、代わりの先生ではダメで、僕に“児童扶養手当障害認定診断書”を書いて欲しいと言い残して、遠方の町に帰って行ったとのこと。その女性の名前を言われても、思い出せなく、診断書だったら、他のドクターでもよかったのにと、心の中で舌打ちしながら、とりあえずカルテを開いてみると・・・。

僕の青い万年筆で書かれた紙カルテによると、初診は12年前の20歳代の末で、階段が昇りにくくなったという主訴でした。お腹を突き出す独特の姿勢と動揺性の歩行、手先の力はよいが、腕を上げられず、口元の表情などから、一瞥診断がされています。

次の受診は四年後で、歩行はやや不自由になっていましたが、近いうちに結婚するという。その上で、病気の進行状況や今後のことや、遺伝、福祉などの社会的サポートについて説明を求められ、何通かの診断書や妊娠出産にそなえて、僕の母校の産科への紹介状等を書きました。

さらに四年後、カルテは電子カルテに変わっていて、彼女も名字が変わり、訴えも変わっています。歩行はなんとか出来るが、立った時などに足に激痛が走るという。それでも、淡々とした口調で、この病気では筋肉が壊れるし、背骨が曲が

り、それが神経に障って痛いのではないかと、自分に言い聞かせるようにしながら語っていました。僕は慰めるように、そうだろうねと相槌を打ちながら、さらに彼女に話を促すと、足にはしびれもあ



2015年10月撮影

る、横になって眠るとひどくなる、失禁することもあると。

ここまでカルテを読んで、その診察の最中に僕の心の中でアラートが鳴り響いたことを思い出しました。

Something wrong !! 筋ジスの症状ではない！ 脊髄が問題だ。赤ちゃんどころではない！ 悪くすると、下半身の完全麻痺、さらに大小の失禁状態となる！ 褥瘡だらけで皮膚も荒れ、この人の人生がさらに大変になる！ 直ぐに脊髄病変の探索だ！ MRI だ！

苦い思い出がある。かなり前のことだが、南米から働きに来ていた日系人で、ピチピチした若い女性だった。通訳の女性の話では、足がしびれるというので、調べてみると、脊髄腫瘍を見つけた。熟練した繊細な腕が必要なので、顔見知りの脳神経外科医を思い浮かべながら、手術の必要性を告げたところ、故国に戻って治療するという。で、その国の医療レベルを危惧しながらも、スペイン語は出来ないで、とりあえず英語で紹介状を書き、複写した画像を渡しました。1、2年後、通訳さんが別の患者さんに付き添って来たので、あの子だと聞くと、彼女は母国に戻って手術はしたが、うまくいかず、今は障害者施設にいるとのこと。思わず、僕はため息を漏らし、もっと強く日本での治療を薦めればと、悔やんだものだ。

果たして、その筋ジスの患者さんの脊

椎のMRIが電力のモニターに映し出されると、胸椎と腰椎の移行部（上腹部レベル）で、神経組織である脊髄の末端の近くに腫瘍が見つかりました。腫瘍の形から、若い頃にも症例を経験したこと

あるダンベル型の神経鞘腫のようだ。これはラッキーだ、手術で取れるかもしれない。しかし、脊髄の手術は失敗すると悲惨なことになるので、医者を選ばなければいけない！

直ぐに脊髄腫瘍の専門医を調べ、彼女の住所に近い、ある大学病院の整形外科の教授に紹介状を書きました。

しばらくして、その先生から返事があり、無事腫瘍を全部摘出でき、病理像は神経鞘腫で悪性ではないとのこと、ほっと胸をなで下ろしました。でも、ちょうどその頃、僕は病院長退任を控えており、様々な雑事の積み重ねの中で、この患者さんのことは意識の中から遠のいてしまいました。

さらに、四年経ち、閏年になって彼女がまた訪れたのです。今度は予約しておいた日に、オリンピックのようだと心の中

実りの秋です。飛んでけコロナ!!



で軽口を叩きながら診察室で待っていると、ご主人が押す車いすで入ってきました。歩くのは難しくなってはいたが、ひどかった足の痛みは手術後に綺麗になくなり、また、排尿障害もありません。そして、なによりも手術の二年後に、紹介してあげた産科で、男の子を自然分娩で産めたと報告したかったとのこと。嬉しそうにそう言った後、こうも付け加えました。

「ええ、遺伝のことは分かっています。手仕事をする小さな町工場をやっていた父も同じ病気でしたから。それでも、何とか仕事をして家族を養っていました。半分の確率でこの子に出ても、その頃は遺伝子治療など医学が進んでいると思っています・・・。」

そうであって欲しいと思いつつ、より充実した社会資本を利用できるようにと、診断書や書類を何枚もクラークさんに口述していきました。

ふと、重苦しいコロナ日和の中、一陣の爽やかな風がさっと吹いたような気がした。医者冥利に尽きると。たとえば先端医療や新知見に追いつかなくなっても、古稀を過ぎた僕の知識や経験が、人の人生に多少とも良い指南をしたのだ。外来診療を続けていてよかったなと。

ふと恩師の言葉が脳裏に浮かんできた。フレッシュ・ドクターのデューティで、ベシュライバー（カルテ書き）として教授外来のお手伝いをしていた時、どんな地位になるうが、医者は決して診療を停めてはいけないと、先生は口にされた。それは、患者さんのためでもあるし、自分のためにでもある、と・・・。



■ 外来診察担当表 (2020年10月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	小長谷	酒井	久留	小長谷	久留
	木村		南山		
内科	野口	野口	牧江	落合	
		落合			
小児科		予約			予約
整形外科		田中 (装具外来)			田中
リハビリテーション科		田中			田中
皮膚科		予約(午前)			予約(午後)
歯科	滝川(午前)	加納(午後)		奥村(午後)	
禁煙外来	野口			落合	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



編集後記

鈴鹿市でも病院や福祉施設がクラスターとなり、院内の緊張が高まる中、感染担当医の指示のもと感染管理認定看護師は、職員からの相談に耳を傾け、新型コロナウイルス等の感染防止につとめています。

鈴鹿病院の職員は、一丸となって感染防止対策を実践しています。

地域医療連携室長 南山 誠・スタッフ一同

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>